



Fukuoka Prefectural University

# Kendai

magazine 2014 春号

no.16

福岡県立大学広報



## Contents

卒業式	P2~3
第22回秋興祭	P4
学長・学部長と学生との懇談会	P5
不登校・ひきこもり支援フォーラム	P6
社会貢献フォーラム	P7
国際交流	P8
サークル紹介	P9
学生活動	P10
退職教員紹介	P11
卒業論文発表会／基金	P12

## FPU Students See the World !





卒業式 式辞

# 初心忘るべからず

理事長・学長 柴田洋三郎

春うららかな今日の良き日に、めでたくこの日を迎えられた卒業生・修了生283名の皆さんに、福岡県立大学の教員・職員を代表して心よりお祝い申し上げます。おめでとう。

また本日まで皆さんを暖かく見守り、励まし、支えて、この晴れの日を共にお迎えになっておられるご家族・関係者の皆様にも、感慨ひとしおの事と、心からお慶び申し上げます。

このたびご卒業なさる、人間社会学部173名、看護学部92名、大学院を修了なさる院生18名の皆さん、本日の門出にあたり、入学から卒業までの歳月を振り返って、いま皆さんの胸にはさまざまな思いが去来していることでしょう。皆さんご研鑽の成果として学問的に大きな達成感を実感すると共に、視野の広がり、物事を考える深さ、さらには多くの友人知人との交流など、人間としての幅は、入学時に比べ、随分と大きくなったことでしょう。この成長は、キャンパス内での勉強だけでなく、地域の人々との交流や、日々の生活などでのさまざまな体験の蓄積を通じて、もたらされたものだと思います。

君たちは、入学のときに「初心忘るべからず」という言葉をかけられたことでしょう。これは室町時代に世阿弥が残した能楽の秘伝書の中の言葉ですが、今日では物事を始めるにあたっての新鮮な感激や意欲を、「最初の志」として、忘れず持ち続けるようにとの、微笑ましい肯定的な激励とされています。しかし、本来、世阿弥が「花伝書」や「花鏡」にいう「初心」とは、決して肯定すべきものではなく、己の技量の未熟さ、不完全さを鋭く指摘する深い意味あいを持っています。即ち、新たな物事に初めて出会う時に直面する、容赦ない試練や失敗こそが「初心」の本質です。

世阿弥は3つの初心があるといっています。まず若いときの初心です。「是非に初心わするべからず」とは、いまだに経験したことが無い事態に対して、己の未熟さ・不完全さを知りながら、その新しい試練に果敢に挑戦していく厳しい心構えであり、姿です。君たちは、本学の勉強において、この初心を体験したことでしょう。つぎに世阿弥は「時々初心忘るべからず」と述べ、「初心」は終生続くものであり、人が成長し成熟するに伴って、年齢ごとに各段階で遭遇し打破すべき未知の試練を指して、「時々初心」とよび、常に新たな打開（展開）を探るべき心がけが絶えず必要なこと、惰性や慢心を諷めています。

さらに世阿弥は「老後の初心をわするべからず」ともいい、年とって円熟期に達してからでさえ、その段階にふさわしい未踏の境地を切り開いていく初心が必要であること、日々精進する心がけを述べております。

これは、人の生き方としてだけでなく、人の世の営みに対しても当てはまることかもしれません。高齢化社会を迎え、社会や組織が緩やかに衰退しつつある時、それに気付いていても、ほどほどにうまく行っていると思うと、人は成功体験に惑わされてなかなか転換を図ることが出来ません。そうした時、「初心を忘れず」あえて一歩も二歩も前に出て、発想を変え新しい未来の基礎づくりを目指すこそが大学の責務であり、そこに学んだ君たちの使命です。

その一方で、理論や基礎を学ぶ大学での教育と、現実の・生きた人間関係を前提とする実務・実践の実社会との間には、TRANSITION SHOCK とキャリアリティー・ショックなどと呼ばれる、深い谷間があります。さしあたり、皆さん方の直近の初心としては、このギャップをいかに乗り越えるかでしょう。特に、専門職の領域では、比較的狭い閉じた世界の中で、当初はなじめないことも多いでしょう。しかし、失敗を恐れてはいけません。本当のプロフェッショナルと呼ばれるためには、幾度・挫折を味わいながら試練を乗り越えてきたか、何度・修羅場をくぐりぬけてきたか、その体験の深さと度合いが問われてきます。即ち「時々初心忘るべからず」です。

「卒業式」という式典の意味するところは、いみじくも「Commencement 始まり」と米国で呼ぶように、学業の完結・終了ではありません。「開始、始まり」即ち「これから社会に出ていく君たちの新たな人生の門出・旅立ち」なのです。是非これからも、新たな気持ちで、その「時々初心」を自覚し、それぞれの立場・持ち場での責務に日々挑戦していただくことを、願っております。

最後にあたり、皆さんが、この福岡県立大学で学び身に付けられた、「しなやかでゆるぎない使命感」をもって、理想社会の実現に少しでも近づく様に、また後に続く後輩達への良き手本となる様、精進に努めて下さい。福祉・保育・医療などの専門職業人として、それぞれの持ち場で、立場の異なる人々と手を携え、人の痛みの分かる感性を備えた社会人として、どうか逞しく活躍されることを心より期待して、祝辞と致します。



▲祝辞を述べられる海老井悦子福岡県副知事

# Graduation

福岡県立大学

# 卒業式



▲福岡県立大学吹奏楽団の伴奏で市民コーラスの皆さんとともに会場全員で学歌を合唱



▲謝辞を述べる松本実華さん(左)と財前篤子さん(右)

平成26年3月18日(火)、平成25年度卒業式が行われ、学部265名、大学院18名の計283名に卒業証書・学位記が授与されました。

柴田洋三学長の式辞に続き、海老井悦子福岡県副知事、長裕海福岡県議会副議長から祝辞をいただきました。

学部卒業生代表として看護学部看護学科の財前篤子さん、大学院修了生代表として人間社会学研究科社会福祉専攻の松本実華さんが謝辞を述べ、最後に福岡県立大学吹奏楽団の伴奏で市民コーラスの皆さんとともに会場全員で学歌を合唱して式を終了しました。



# 第22回 秋興祭

天気が心配されましたが、第22回秋興祭に多数の御来場を賜り、深く感謝申し上げます。

今年はいまだにない企画に挑戦したいという思いがあり、田川の皆様と学生がステージ上で一緒に楽しめる地域企画、デコレーショントラックの展示、大人も子供も楽しめる県大オリンピックなどを取り入れました。

また、例年人気の模擬店や提灯越しのシンボルタワー大アートなども綿密な準備を重ねて本番にのぞみました。おかげをもちまして、多くの方に楽しんでいただける大学祭が開催できたのではないかと思います。

今年の反省点や課題を活かし、より良い秋興祭を創り上げられるよう実行委員一同努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

福岡県立大学 第22回秋興祭実行委員会  
実行委員長 上野 美郷



○平成25年 11月9日(土)~10日(日)  
○来場者数 3,358人

平成26年2月15日(水)学長室において、学長懇談会が開催されました。これは毎年1回、学長と学生とが直接対話し、交流するものです。平成25年度は、自治会から学生代表の4名が出席しました。大学側からは、柴田学長をはじめ学務部長、学生支援班長及び学生支援班と教務入試班の職員が同席し懇談会をサポートしました。

学生代表からは、「ATMの設置」、「駐車場の増設」、「食堂の拡大」、「学生への情報提供手段の改善」、「情報処理室の休日開放」、「インカレ参加を公欠に」など、よりよい学生生活に関する要望が出されました。また、授業に関する質問も多く、1時間30分間にわたり熱心な意見交換が行われました。

学長懇談会は、この時期に毎年行われており、学長、事務局職員と学生が忌憚なく相互に話し合える貴重な機会と位置付けられています。



## 学長・学部長と学生との懇談会

### 看護学部



看護学部では、学生生活の充実をねらって学部長と学生の懇談会を年2回、学生支援部会のもとで開催しています。

平成25年度は、6月19日の第1回を茶話会形式で、11月28日に第2回ランチオン形式で行いました。参加者は、それぞれ第1回は学生31名・教員15名、第2回は学生31名・教員14名でした。

学部長からの学業に関する話がありますが、学生と教員でテーブル毎にいろいろなことを話し合うのが主です。各学年の学生が参加していますので、実習のこと、授業のこと、定期試験等の話題が多く、第2回では就職活動、国家試験準備に関する話題もありました。短い時間ですが、「教員と話ができてよかった」「学生生活で先輩から教えてもらって良かった」という声が多く、有意義な時間です。教員達にとっても、学生の関心事がわかり学生理解に役に立っています。



福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター  
後援(予定) 福岡県教育委員会 福岡市教育委員会 北九州市教育委員会

# Rethink OurSupport

平成 25 年度  
不登校・ひきこもり支援フォーラム

## 発達障害

— 学校でおこなう支援を見直す —

参加費 無 料

2014.3.6 木

13:30-16:00 (受付は 12:50-)

▶▶ 福岡県立大学 講堂



●平成25年度

# 不登校・ひきこもり支援フォーラムを 開催いたしました

福岡県立大学附属研究所 不登校・ひきこもりサポートセンター主催のフォーラムを3月6日(木)に開催いたしました。

今年度は「発達障害—学校でおこなう支援をみなおす—」をテーマに、元嶋啓子先生(東鷹高等学校特別支援教育学年コーディネーター)、下村泰斗先生(九州労災病院精神科副部長)の2名を講師として招聘いたしました。

当日は、卒業や進学に向けた慌ただしい時期にも関わらず、県内はもとより県外からも多数参加申込をいただき、会場の講堂は参加者279名でほぼ満席となり、大盛況でした。

13時30分からの開会に伴い、座長の松浦賢長(福岡県立大学理事/サポートセンター幹事教員)より本フォーラムの趣旨説明をおこない、両講師から発題をいただきました。元嶋先生には“高等学校の視点”から、下村先生には“臨床の視点”から、発達障害を抱える児童生徒への学校での支援についての御講話をいただきました。休憩の間、フロアから回収した質問紙にはびっしりと現場の生の声が記載されており、質疑応答では、参加者と共に、より良い支援についてディスカッションをおこないました。

閉会には座長の小嶋秀幹(福岡県立大学人間社会学部教授/サポートセンター長)より全体のまとめがなされ、16時に終了しました。



# FORUM

●2013年

## 社会貢献フォーラム —地域の課題に向きあって—

平成26年1月28日、附属研究所大セミナー室において、「社会貢献フォーラム」が開催されました。社会貢献・ボランティア活動を通じた学生の社会貢献の体験を就業力の向上につなげる取組が始まり4年目を迎え、今年は『地域の課題に向きあって』という副題のもと、1年間の活動の成果と今後の課題をまとめ、発表をしました。

発表は、『学校支援ボランティアを通して』、『JICAジュニア地球案内人に参加して』、『言葉の壁を越えた支援方法』の個人活動3題、ボランティアサークル活動は、Ch-Link、ハンドポスト、湯山荘ボランティアサークルの3題、および『社会貢献論演習』受講学生の成果報告も行われました。『社会貢献論演習』受講学生は、①大学生の防災意識調査と防災への取組、②母子家庭における学習支援の必要性、③福智町における高齢者ふれあい交流活動、④添田町ICTオープンスクール～田舎の町政への提案～の4題の発表があり、社会で発見した課題を自分達の目線で理解し、PDCAサイクルで整理して解決への取組みを構築していきました。今後も学生のみなさんの地域に根ざした活躍に期待しています。

今回、『学校支援ボランティアを通して』を発表した看護学科1年長谷川友紀さんの活動を紹介します。

社会貢献・ボランティア支援センター  
センター長 村山 浩一郎



### ●動機・目的

子どもたちの気持ちを少しでも理解したい  
子どもたちとのコミュニケーションをうまくとりたい  
自分に何が必要かを知りたい

### ●活動内容

授業中につまづいている子どもたちと関わる  
給食を食べながらコミュニケーションをとる  
休み時間に子どもたちと遊ぶ、相談にのる

### ●気づき

クラスごとの特徴がある  
担任の先生に子どもたちは秘密なことがある  
たくさん褒めてほしい

### ●目 標

クラスの児童全員と必ず会話する

### ●成 果

子どもたちの年齢や性別に応じた遊びがある  
季節、行事、日常の出来事で変化する身体を知る

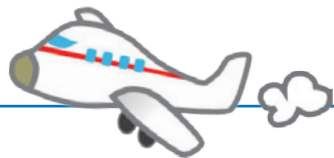
### ●今後の課題

健康面を通しての学校生活を知る

児童からの  
プレゼント



長谷川友紀さん



# 国際交流



## 留学生支援事業報告

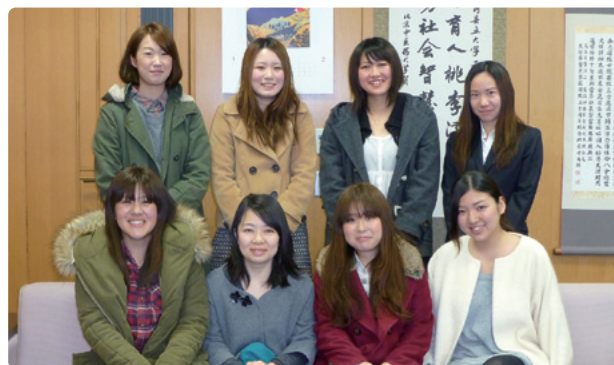
平成26年1月18日、交換留学生9名、教職員4名の合計13名で柳川に行きました。水郷柳川の美しい街並みを川下りで堪能したのち、日本を代表する詩人の北原白秋の記念館を訪れ、白秋の生家や当時の資料などを見学しました。今回の留学生支援事業を最後に帰国する韓国留学生6名は「韓国に帰っても、この美しい風景は忘れないだろう。」と語っていました。



## 派遣交換留学生 バトンタッチ

平成25年度派遣交換留学生3名は、平成26年2月10日学長を訪問し、これからの留学の意気込みを伝えるとともに出発の挨拶をして、おのおのの留学先に元気に旅立っていきました。一方、帰国した平成24年度派遣交換留学生8名は、同月26日全員元気な顔を揃え、報告会に臨みました。この中で、日本の良さを改めて再確認したこと、異文化に触れて良い刺激になったこと、そして何事にも積極的になったことなどの報告がありました。

留学を通して得たものを糧に、国際人として飛躍してけることが期待されます。



## 韓国・留学生日本語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞



平成25年12月8日、福岡県飯塚市のイイツカコミュニティセンターで、「飯塚国際交流のつどい2013スピーチコンテスト」が開催され、外国人による日本語スピーチの部門において、「ただの思い出じゃない」と題して、三育大学からの交換留学生の申明奂君がスピーチを行いました。申君は、ユーモアを交えながらも、「留学を思い出だけではなく、留学で得た経験を踏まえてお互いの国の理解を深めることに役立てていきたい」と話したことで、最優秀賞を獲得しました。





## 体育系サークル

# フットサークル英彦山FC

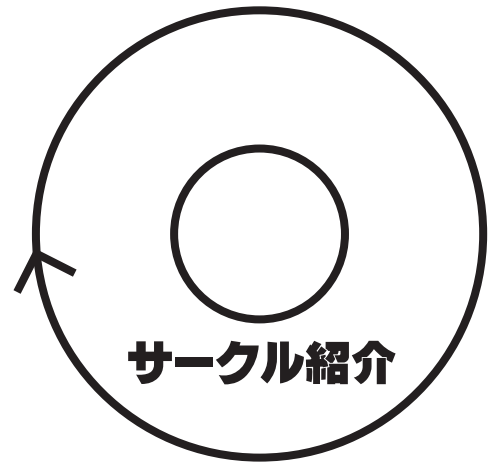
私たち英彦山 FC は、福岡県立大学で活動するフットサルサークルです。普段は週2回、学内の体育館で活動しています。ほとんどが初心者で、他のサークルとの掛け持ちの部員も多いです。しかし皆仲良く楽しくフットサルをしています。明るく面白い部員ばかりなので、毎回の練習では笑いが絶えません。

部員も50名近くいて、福岡県立大学の中ではかなり大規模なサークルです。フットサルというとまだまだ知名度も低くイメージの湧かない方も多いと思いますが、英彦山 FC では女子プレイヤーも多く、男女関係なく気軽に始めることのできるスポーツです。

練習してきたプレーが上手いったり、チームメイトと連携してゴールを奪った時の喜びは言葉では言い表せないものがあります。もちろんプレイヤーとしてだけでなく、マネージャーとして活動する部員も多くいます。フットサルは学内での活動が主ですが、気軽に楽しむにはもってこいのサークルです。またフットサル以外での活動も多く、サークル全体で旅行などに行ったりして先輩や後輩関係なく皆が本当に仲の良いサークルです。

県大でのサークル活動を楽しむなら英彦山 FC に入るしかありません！ 興味を持った方は是非、体育館を覗いてみて下さい！

主将 人間社会学部 公共社会学科  
2年 鬼塚 正人



## サークル紹介

# 二次研



## 文化系サークル

# 二次研

私たちは二次研サークルです。二次研は、アニメ等のサブカルチャーをこよなく愛する人たちが集まるサークルです。

アニメが好きの人、マンガが好きの人、ゲームが好きの人、ライトノベルが好きの人、ボーカロイドが好きの人、絵を描くことが好きな人など、様々な趣味をもつ部員たちが所属しています。まだできたばかりのサークルなので一年生と二年生しかいませんが、部員同士の交流は盛んで、仲の良い、楽しい雰囲気があります。

普段の活動は、共通の好きな作品について話をしたり、自分のおすすめの作品を互いに紹介し合ったりといった部員間の交流や、作品の鑑賞会など、絵やイラストを描くなどの活動を主としています。また、昨年の大学祭では喫茶店を開きました。

今のところ規模が小さく、他サークルのように実績の残る取り組みや対外的な取り組みなどは行っていませんが、共通の趣味をもつ人を見つけ、気軽に集まって話ができるようなコミュニティを目指しています。またこれから少しずつ活動の種類を増やしていきたいと思っています。このようなサークルですが、少しでも興味のある方は是非足を運んでみてください。皆さんが訪れるのをいつでも歓迎しております。

主将 人間社会学部 公共社会学科  
2年 片山 敦史

# 学校ソーシャルワーク実習報告会



人間社会学部  
社会福祉学科 4年

## 前屋敷 なな子

実習は、専門職として常に目的を持ちながら行動していくことの重要性を改めて認識する“気づき”の機会となりました。

平成25年2月5日(水)、本学5101教室にて「平成25年度学校ソーシャルワーク実習報告会」が行われました。

今年度、私たちスクール(学校)ソーシャルワーク教育課程5期生の10名は、福岡県内でスクールソーシャルワーカーが配置されている複数の教育委員会や学校現場にて、約150時間を超える現場実習をさせていただきました。報告会では、実習生が個々に実習内容等の報告を行うだけでなく、実習場面で体験したさまざまなエピソードやレクリエーション活動を披露するなど、オリジナリティ溢れる発表を行いました。

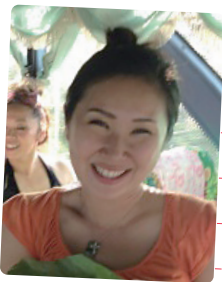
約半年に及んだ実習は、専門職として常に目的を持ちながら行動していくことの重要性を改めて認識する“気づき”の機会となりました。この実習での学びを糧に、4月からは実践現場での支援に生かしていきたいと思えます。

最後に、今回の実習で指導していただきましたスクールソーシャルワーカーをはじめ、関係者の皆様方に対し、実習生を代表して心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 学生生活を紹介します

# バーンロムサイ (HIV 孤児院)



看護学部看護学科 1年

## 榎 舞

音楽や踊りを通し、言葉の壁を越え、国境を越えた繋がりを私たちは築くことが出来ました。

2013年11月、NPO法人コモンビートの活動の一環としてタイのチュラロンコン大学、プラダボス財団が運営する職業訓練校、チェンマイのバーンロムサイ (HIV 孤児院)へパフォーマンスツアーに行ってきました。

音楽や踊りを通し、言葉の壁を越え、国境を越えた繋がりを私たちは築くことが出来ました。特に子ども達との出会いには心を強く打たれました。

子ども達と対面する前は、思春期の子どもにとって外国から来た日本人はどういう風に見られるのか、HIVという病気を抱えている子ども達はどんな心境なのかという事に悩んでいて、何故か会いたくないという気持ちが湧き上がりました。

実際に子ども達に対面すると涙が溢れてきました。それは命の尊さを目の当たりにしたからだと思えます。

一週間という短い滞在でしたが、多くの学びを得ることが出来ました。これらの学びを将来の医療現場で役立たせることが出来れば、と考えています。



# 退職教員紹介

(H26.3.31 付)

## 人間社会学部



教員兼務理事・教授  
古橋 啓介

定年により退職することになりました。平成4年の福岡県立大学人間社会学部の開設に伴い、人間形成学科教授として赴任しました。発達心理学関連の授業科目を担当し、22年間お世話になりました。大学院修士課程の開設、大学院心理臨床専攻の臨床心理士資格養成機関としての認定、看護学部の設置、法人化とさまざまな出来事がありましたが、同僚の教職員の皆さま、学生の皆さん、地域の方々とともに協力して乗り越えることが出来ました。充実した日々でした。

退職後も筑豊の一隅に住み続け、福岡県立大学の発展を見守りたいと考えています。有難うございました。



人間社会学部長・教授  
小松 啓子

昭和62年4月に、福岡県立大学の前身である福岡県社会保育短期大学に赴任し、その後福岡県立大学人間社会学部の移行、看護学部設置、法人化への以降と、この27年間は、私の青春時代だったと思っています。本学で教員として働くなか、学生が大好きな自分に気づけたことは大きな収穫でした。この10年間は、本学の主人公は学生という思いが日々強くなり、学生のために専門の授業以外に何か貢献できないか思うようになりました。これからは、学生が本学で学べて本当に良かったと自覚できるキャンパスづくりを期待しています。小松に多くの学ぶ機会を与えてくださった皆様方に感謝申し上げます。



教授  
久永 明

福岡県立大学の開学とともに着任して早22年が経ち、無事に定年退職することになりました。この間、県立大学の5周年・10周年・20周年記念事業と関わるなかで、一学部から二学部、附属研究所設置へと発展する大学の姿を実感してきました。また、「まちがキャンパス」を合言葉に周辺市町村の行政や共に歩む会、筑豊市民大学、応援する会など、多くの団体が学外から県立大学を支えていただき、大変ありがたくやりがいのある教育・研究の場でした。筑豊地域の新たな展開に向け、県立大学の益々のご発展と皆さまの更なるご活躍を祈念いたします。

大変お世話になりました。



教授  
茂木 豊

昭和53年4月に本学の前身である福岡県社会保育短期大学に専任講師として赴任しました。その後、短大の4年制化によって福岡県立大学人間社会学部に所属することになり、現在に至っています。いろいろなことに取り組みましたが、ほとんどのことが中途半端で終わっているという気持ちを持っています。そのようなことの中からいくつかを選んで、退職によって生じる時間的余裕を活用して、成果を出すことをもくろんでいます。

退職直前2年間に、「ほく」や「わたし」だけではなく、「われわれ」という言葉を私が使うことを可能にして下さった皆さんに感謝します。ありがとうございました。



助手  
岡村 真理子

平成5年に着任しました。当初は心理学実験の授業補助にも携わらせていただき、先生方の温かいご指導のおかげで未知の分野を学ぶことができました。研究では、伊田幼稚園の子どもたちと行ってきた13年間のちびっこ農園活動がやりがいのある取り組みでした。平成22年度からは、文部科学省に採択された就業力育成支援事業や産業界二一事業に関わらせていただくなかで、新しい学生教育のあり方を考え、実行する機会を得ることができ、貴重な体験となりました。今後は、福岡県立大学で培った力を地域での食育活動に活かせるよう、学びを深めていきたいと思っています。20年間ありがとうございました。

## 看護学部



准教授  
山崎 律子

平成21年12月に着任して4年4ヶ月、大変お世話になりました。在職中はこれまでにない多くの経験をさせていただきました。特に在宅看護学実習で学生や実習施設の職員のみならず語り合えたことは、今後の私の新たな在宅看護への道を示すものとなりました。また、中医学を学んだことも同様です。

人間のもつ力を引き出し、人と人をつなぎ支える看護職の実践を教育や研究ばかりでなく、自らの実践を通して深化させていこうと考えています。

ありがとうございました。



講師  
三並 めぐる

3年間お世話になりました。人の出会いが宝だといわれますが、魅力的な人々との出会いがたくさんあり、本当に嬉しく充実した時間を過ごさせていただきました。心より感謝申し上げます。九州の魅力は人だけでなく、食べ物、温泉をはじめ研究室から眺められる二本煙突、英彦山、朝日や夕日の美しさ、自然も十二分楽しませていただきました。英彦山は私が四国で眺めている西日本最高峰 1982mの石鎚山と似ている事も不思議なことでした。石鎚登山の時はお声をかけ下さい。学生たちの未来と福岡県立大学の皆様方の益々のご健勝、大学の発展を祈念しております。ありがとうございました。



講師  
八尋 陽子

平成22年4月に福岡県立大学に着任し、4年間勤務いたしました。大学における看護基礎教育は初めての経験でしたので、不慣れたことが多く周囲の方々に多大なご支援をいただきました。

在職中には、臨床実習を中心に教育活動に携わり、学生と共に臨床の場で実践を行いながら看護のやりがいと奥深さを体感する日々でした。大学院ではがん看護専門看護師コースの学生と共に「高度な看護実践力」を学ぶ機会となりました。短い間でしたが、福岡県立大学で得た多くの学びと経験を今後の教育研究活動に役立てていきたいと思っております。

ありがとうございました。



助手  
柏原 やすみ

4年間、大変お世話になりました。着任した頃は、学内のこともわからず、教えていただくことばかりでした。隣地実習で3年生と関わり、そして就職・国家試験関連で4年生と関わり、学生の成長を間近で感じることも出来ました。指導には戸惑うこともありましたが、私自身教員として、また看護師として成長できたのは、今までお世話になりました先生方、また、多くの学生さん、実習でご指導いただきました看護師の皆様のおかげだと思っています。今後、新たな土地で勉強し臨床の現場に戻った際には、少しでも皆様にご恩返し出来るよう頑張っていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

### [職・氏名のみ]

人間社会学部 准教授

光本 伸江

看護学部 准教授

アドラーコリンズ・ジカン

看護学部 助手

野見山 美和



# TOPICS



## 公開卒業論文発表会

2月4日(火)の平成25年度人間社会学部卒論発表会は、ホームページ上に発表論文題目を含むプログラムを載せ、学外の方々にご参加へのご案内をした上で行いました。

これまで「非」公開という明確なルールがあったわけではありません。しかし、積極的に公開しようという発想がありませんでした。福岡県民、地域の方々を支えていただいている大学として、その教育の成果を広く公開する義務があるのでは、と発想を変えました。

学外の方も発表会に参加しているということで学生への刺激となるのではという狙いもあります。短期間のHP上だけのご案内でしたが、学外からは14名の方が来てくださいました。新聞3紙からも記事として取り上げてもらいました。

看護学部では現在は卒論が選択なので、まだゼミ単位での公開ですが、卒論が必修となる2年後の卒業生からは大学全体で取り組むこととなります。今後とも教育の充実に努めるとともに、その成果の公開にも努める所存です。



## 福岡県立大学基金のご案内

福岡県立大学では、学生生活、教育研究等の充実に図り、福祉社会に貢献できる人材を育成することを目的に基金を設置しています。寄附金は、学生支援、国際交流、教育研究活動等の事業を実施に活用されますが、用途を指定することもできますので皆様のご支援をお願いします。

なお、公立大学法人である本学への寄附は、所得税や法人税、個人県民税等の優遇措置が設けられていますのでご利用ください。

### 【寄附金受入口座】

福岡銀行 伊田支店 普通 2100481  
口座名義 公立大学法人福岡県立大学 柴田 洋三郎  
※寄附をされる場合は、事前にご連絡をお願いします。

### 【連絡先】

事務局総務財務班 TEL 0947-42-2118



福岡県立大学ホームページ

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

在学生向け携帯サイト

[http://www.fukuoka-pu.ac.jp/m\\_students/index.html](http://www.fukuoka-pu.ac.jp/m_students/index.html)

